令和7年度　東京都立農芸高等学校（全日制）学校経営報告

校長　吉野　剛文

今年度は、多様な生徒への全教職員によるきめ細かい対応を組織的に推進するとともに、募集対策の強化を図った。今年度の結果を検証し、次年度へ反映させ学校全体で取り組んでいく。

１　今年度の取組と自己評価

（１）教育活動への取組と自己評価

各学科の教育活動

①大学科共通	（ア）	授業規律を重点的に定め、教職員が共通認識をもって指導にあたるように努めた。学級担任と教科担当が連携を一層充実させ、生徒一人一人の学習指導に取り組んだ。
	（イ）	各教科は生徒の基礎学力の定着と伸長を図るとともに、学力の向上に取り組んだ。
	（ウ）	基礎・基本の学力を確かなものにするため、１年次には中学校段階の再学習にも取り組んだ。特に、国語・数学・英語を中心に小テストを繰り返し、また補習・補講を実施した。また全学年かつ全教科で、高校の学習に遅れがちな生徒に対して、補習・補講・レポート提出などに取り組んだ。さらに１学年は、普通教科を中心に校内寺子屋事業に取り組み、長期休業中だけでなく、定期考査前にも設定し、生徒の学力向上を図った。
	（エ）	教職員は、学習指導力向上のために研究と修養に努め、授業力の質的向上に取り組んだ。そのために「教員相互の授業参観」を実施するとともに、研究授業や他校での授業参観を通して実力を高めた。さらに、教科担当者は、ＩＣＴ機器で使用する教材開発を積極的に行った。
	（オ）	「国語」「英語」「数学」での習熟度別授業、「体育」や「家庭」等の少人数制授業を有効に活用し、生徒の実態に即した授業を展開した。 国語科では、漢字検定を校内で実施し、準２級に１名が合格した。 英語科では、英語実用検定を校内で実施し、２級に１名、準２級に３名が合格した。
	（カ）	特別な支援が必要な生徒対応については、特別支援委員会を開き組織的に生徒情報を共有した。また、スクールカウンセラーと連携し、コミュニケーションアシスト講座や心理士を活用したほか、外部機関へ接続することができた。
	（キ）	自宅学習の備えとして、オンラインでの授業を念頭に置いた教材作成に教科で取り組んだ。また、12 月 11 日には、オンラインデーを設定して自宅での学習を実施した。

農業科の取組

②園芸科学科	**（ア）学科における学習指導・生活指導・進路指導などの取組**
	（学習指導）授業・レポートの指導等をとおして基礎学力の定着を徹底した。Microsoft Teams でも活用可能な授業展開、教材の更新を行い、学習意欲を維持できるように取り組んだ。一人１台端末の活用を促し、Teams の課題機能によるレポート提出に取り組んだ。 （生活指導）全ての授業で、挨拶、遅刻、頭髪、身だしなみの指導を徹底した。また、食料や生活を育む植物を扱う者として自他の生命を尊重し、自然に感謝と愛する豊かな心の育成につなげることができた。 （進路指導）専門教育やインターンシップをとおして、自己の在り方や生き方を考えさせ望ましい勤労観と職業観を育てた。また、学科の教職員における面接指導及び小論文指導を丁寧に行い、組織的な進路指導を実施した。 （地域連携）地域企業や地域自治体と連携の取組として、これからの農業の在り方や企業が取り組む農業事業について指導・助言を行った。また、農芸高校と連携できる事業について協議した。 （特色化）　ＧＡＰ教育の推進に努めた。５月にはＪＧＡＰ認証継続審査を実施した。また、スマート農業では農場へセンサを導入するとともに、プラントセラーを導入し、次年度は本格的に活用を始める。 （資格取得）校外学習・資格取得やインターンシップを勧め、農業関連分野への意欲・関心を高めた。また、進路指導部や学年と連携して３年生の進路活動を支援した。
	（イ）目標達成のための実践結果
	（A）基礎学力向上を目標として、各科目で言語能力と計算能力を高める授業展開を実践した。また実験や実習を重んじ、科学的な思考や倫理観を高めることを目指した。特にレポート指導を強化することにより、論理的な文章が書けるように指導を行った。 （B）座学や実習等を通して、自然と人間生活の関わりを深く理解する機会を積極的に設け、農場及び実験・実習施設の清掃指導を徹底し、清潔で安らぎのある学習環境と生活環境を整えた。 （C）３年生の進路指導は科内で分担して個別に面接・論文指導を実施した。３年生は「都庁花壇の装飾」を実施し、２年生は「阿佐ヶ谷花壇の装飾」を通して、奉仕の心の育成と社会に尽くす態度を育むことができた。 （D）３年選択「野菜」の授業では、トマト・ミニトマトを栽培し、ＧＡＰ教育に取り組んだ。次年度は全生徒への浸透のために取組みの改善が必要である。 （E）農業技術検定３級 32 名が取得した。初級バイオ技術者認定３級 16 名が取得した。
③食品科学科	**（ア）学科における学習指導・生活指導・進路指導などの取組**
	（学習指導）座学では意義や役割と理論を学び、実習では総合的な体験及び検証を行い、食品に関する基礎的・基本的知識と技術を習得の向上につなげた。 （生活指導）豊かな人間性育成のため、実験実習を通して基本的な生活習慣の確立を図った。また、すべての授業において、挨拶、遅刻、頭髪、身だしなみの指導を徹底した。 （進路指導）学科の教職員における面接指導、小論文指導を丁寧に行い組織的な進路指導を実施した。

（地域連携）地域におけるマルシェ販売では、「ジャム」・「クッキー」・「パウンドケーキ」を販売した。
（特色化）　多岐にわたる製造項目を実習授業において学習し、専門性を生かした地域の特産品の開発に取り組み、専門教育の向上と充実を図った。
（資格取得）将来役に立つ食品に関する資格取得を目的とした授業をカリキュラムに取り入れ、受験者の８割が合格できるよう指導を行った。

（イ）目標達成のための実践結果

（A）実験実習を通して専門的知識と先端技術への理解を深めさせた。学習では、内容を常に記録と整理を行い、活用する習慣を身に付けさせた。また、レポート等の提出期限を守るよう指導の徹底を図った。
（B）実験・実習の授業を通して、安全に配慮し、協力と責任を重んずる態度とそれを実践する力を養った。また、生活規律の指導として欠席、遅刻、早退、忘れ物等の指導を徹底した。特に、食品衛生に留意し、服装、頭髪、化粧、爪、装飾品、手洗いなどの管理を徹底した。
（C）実践的な学習活動とし、専門学校講師による、和菓子（製餡実演、練切）、カラーコーディネーターや包装技術の有資格者による授業等を実施し、食品のスペシャリストとしての職業観を養うことができた。
（D）食生活アドバイザー検定３級・Ｐ検３級、リテールマーケティング検定３級を希望者に受検させた。日本農業技術検定において２級は、２年生１名が合格した。また、３級は１・２年生で６名が合格した。食生活アドバイザー２級は 11 名、３級は 18 名、食品衛生責任者は 36 名、新たに校内で受験可能となったリテールマーケティング検定３級は４名の合格者を出した。初級バイオ技術者認定試験では６名が合格した。昨年度から向上したものが多いが、さらに指導を改善し、向上を図る。

④緑地環境科

（ア）学科における学習指導・生活指導・進路指導などの取組

（学習指導）専門教科で丁寧なレポート添削を行い、文章力や表現力を向上につなげた。少人数での技術指導やグループ活動、実技試験などを積極的に取り入れ生徒の技術向上につなげることができた。
（生活指導）すべての授業において、挨拶、遅刻、頭髪、身だしなみ、の指導を徹底した。特に、実習における保護帽子や保護手袋の着用を徹底し、安全な実習を行った。
（進路指導）学科の教職員における面接指導、小論文指導を丁寧に行い組織的な進路指導を行った。また、学科として、インターンシップを推奨した。
（地域連携）地域と連携した活動として、公開講座や門松の製作を行い本校の正門に設置することで、日本の文化と技術力の発信を行った。また、作品を都庁知事部局にも持参し、本校の取組について生徒自ら説明することができた。
（特色化）　地域や産業の発展に貢献できる課題研究を実践することができた。
（資格取得）造園技能士検定３級では、合格率 80％以上を目指し指導を行った。造園技能士検定２級は合格率 50％以上を目指し指導した。その他にも農業技術検定や刈払機の資格取得、レタリング検定、トレース検定など様々な資格取得の機会を作ることができた。

（イ）目標達成のための実践結果

（A）項目ごとにレポートを課し、丁寧な添削で生徒の課題把握や技術習得につなげた。測量実技テスト、根巻き実技テスト、ロープワーク実技テストなどを実施し、生徒の技術習得につながった。また、選択科目である造園ＣＡＤの科目においては、きめ細やかな指導を実践したが、今年度はコンテストで優秀な成績を収めることができなかった。実習をとおして責任感や人と協力し合う態度を、身に付けさせることができた。その結果、限られた時間の中で生徒が自己の役割を認識し、自信をもって活躍できる教育活動を実践することができた。
（B）昨年度の反省を生かし、三谷小学校との学校間協力、地域行事など、緑地環境科だからできる貢献活動を実施した。
（C）日本農業技術検定を２年生が全員受験し、今年度は３級に 21 名が合格した。トレース検定（２級２名、３級 27 名）、小型車両系建設機械（17 名）、さらに造園技能士検定に取り組み、２学年は３級に 18 名、３学年は２級に２名が合格した。
（D）造園の全国大会であるものづくり競技会に、本校から初めて出場することができた。また、農業クラブ全国大会では農業鑑定競技造園の部において優秀賞を得た。建設業協会への出展においては卒業庭園制作をパネル化し、全部門でのトップにあたる建設業協会長賞を受賞した。

２　今年度の取組について

（１）教育活動の具体的内容と結果

①学習指導

（ア）学力向上

学校全体の取り組みとして各教科で実施した。『対話的な学びを通じて「わかる」から「できる」』授業を目指し、多くの授業でアクティブラーニング型の授業を実践した。

生徒が希望する進路の実現に向け、学力向上を期して朝学習を設定しているが、取組状況にクラス間格差があった。今後は、時間割編成を工夫するとともに、学力向上の機運を生徒間で高めるべく、基礎基本の知識習得に向けた指導の改善を図る必要がある。

農業の専門教科については、学科を中心に各教科の中で、知識・技能の習得を図り資格取得に力を入れた。特に「日本農業技術検定３級」は、２年連続して目標合格率に到達できず、指導体制の見直しを図る必要がある。

家庭学習の習慣を付ける取り組みは、学年及びクラスにより温度差がある。今年度の１学年はスタディサプリの活用率が７０％以上と他学年に比べて高かったが、一方で成績の振るわない生徒も多く、習慣の定着には大きな格差があることがうかがえる。教科や単元により、生徒の実態や授業内容とスタディサプリの内容に乖離が見られる場合もあり、次年度も学習習慣の定着に対する組織的な取り組みを継続する。

さらに生徒による授業評価アンケートを２回実施し、その結果を生かして、分かりやすい授業をするための工夫を行うなど、各学科間において学力及び専門科目に関する知識や技術の向上に向けた検討を行った。

一方で、多様な生徒が入学することに伴って生じる評価に関する課題について、今年度は観点別学習評価の基準を見直した。今後も授業と評価については絶えず見直し、改善を重ねていく。

（イ）学習支援

各専門学科では、放課後や長期休業中に実習レポートのきめ細かな指導に取り組んだ。また、学力向上研究校として、オープンスペースに配置した机と椅子を活用し、放課後の個別指導や長期休業中の補講を行った。さらに、基礎学力の伸長を図るため、１学年では夏季休業中と定期考査前に寺子屋事業を実施し、大学生による指導を展開した。担任や進路指導部による働きかけにより一定の定着が進んだが、より一層の充実を図り、２年次以降にも広げる必要があることから、次年度は教務部を中心とした体制に変更して充実、発展させる。

スタディサプリを全学年に導入し、

進路指導では、国語科と連携しつつ、「専門高校の新たな学びによる授業改善サポート事業」を活用し、小論文指導を中心に放課後に実施した。

（ウ）資格取得

一人一検定を目標に、資格検定へ向けた指導を展開することにより専門学習の深化と興味関心の高まりが見られた。従来の漢字検定、英語検定、パソコン検定に加え、専門分野のＦＦＪ検定、農業技術検定、造園技能検定、トレース、レタリング、食生活アドバイザー、食品衛生責任者など、専門分野に関係する資格試験を学年別の全員受検・参加や希望者受検で行い、今年度は延べ250名が合格した。特に、生徒に学習への興味関心を高めさせるために、コンクールや競技会等に外部の教育力を活用し積極的にエントリーをした。挑戦した生徒は、学習への更なる意欲をもち主体的に学習に取り組んでいる。

❶造園技能士検定　３級：２学年18名、２級：３学年２名

❷日本農業技術検定　２級４名、３級61名など

このほか、アグリマイスター顕彰制度などの資格取得を目指して、授業や放課後に指導を実施した。

（エ）学校農業クラブ活動

農業科科目の探究的な取り組みを通じてプロジェクト学習法を身に付け、さらに学習内容と日常や社会問題を関連付けて意見発表の作文に全員が取り組んでいる。この取組は多くの生徒の学習活動に意欲を持たせることにつながっており、地域貢献交流会、生産品販売や各種のマルシェ参加実績につながっている。

今年度はＳＩＰ拠点校２年目としてプロジェクト活動がさらに充実し、プロジェクト発表「分野Ⅱ類」で東京都大会で最優秀を受賞し、関東大会出場を果たした。意見発表会には各分野から１名ずつが参加し、家畜審査競技会と平板測量競技会にはそれぞれ４名が参加した。

全国大会では、農業鑑定競技会分野「食品」に出場した生徒が全国１位に相当する最優秀賞を受賞した。これは東京都の学校として初めてのことである。このほか園芸科学科の「野菜」分野で１名、食品科学科の「食品」分野で１名が優秀賞を受賞した。

学校全体として農業クラブ活動へ積極的に取り組む雰囲気が醸成されつつあり、次年度以降も生徒の興味・関心を高め、諸活動をさらに活発にしていくことが期待される。

（オ）読書・言語活動の充実、コンクールへの参加

今年度も言語能力の充実のため、各教科の授業の他に授業以外の活動においても取り組んだ。文章を書かせる取り組みについてはコンクール出品等を機会として継続した。

専門科目においても科目「課題研究」の発表会を中心として、他者に分かりやすいプレゼンテーションの作り方と発表方法について身に付けさせることができた。また、各科の工夫により保護者が参観できる体制づくりを行った。

学校図書館としては、季節や学校行事に合わせた月ごとの特集展示に取り組み、来館者数、貸出冊数ともに30％程度増加した。レファレンス件数も71件と増え、専門学科の取組を踏まえた調査での活用が増えたことが伺える。

また、教科に関連した各種競技会やコンクール等への参加を推進し、達成感・成就感を与え学習意欲を高めさせた。

❶東京都産業教育振興会作文コンクール　　最優秀賞１名　佳作２名

❷日本学校農業クラブ連盟

☑東京都予選	・プロジェクト発表「分野Ⅰ類」	優秀賞　４名
	・プロジェクト発表「分野Ⅱ類」	最優秀賞４名
	・意見発表	各分野１名ずつ参加（園芸科学科１名・食品科学科２名）
	・家畜審査競技会	参加　　４名
	・平板測量競技会	参加　　４名
☑全国大会	・農業鑑定競技会	最優秀賞分野「食品」食品科学科　１名
		優秀賞　分野「野菜」園芸科学科　１名
		優秀賞　分野「食品」食品科学科　１名

（カ）高大・地域連携、その他

日本獣医生命科学大学と包括的連携協定を結び、図書館の相互利用、研究室や講座への参加、進路ガイダンスへの講師の派遣等の連携が進んだ。次年度は他大学との連携を実現させ、生徒の進路選択に寄与する取り組みにつなげる。地域との連携では杉並区教育委員会との連携により、一部小学生の学習に活用したほか、区内教員の研修にも活用するなどし、小中学生のキャリア教育に貢献し、本校を身近に感じてもらうことができた。

その他、今年度もＧＡＰ認証について学習を進めた。ＧＡＰで求められる農業生産工程の見直しについて整備した。今年度は、教員対象のＧＡＰ校内研修を実施した。また、ＨＡＣＣＰの基準による工程の見直しを行った。

	各教科は、ＳＤＧs17項目持続可能な開発目標を選択して、各学期１回以上の授業を目標とした。次年度以降も継続して取り組む。実施後には、実施一覧表への入力も行った。
	（キ）「東京グローバル人材育成計画‘20」（平成30年２月策定）及び「東京グローバル人材育成指針」（令和４年３月）を踏まえ、基盤となる英語力や国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成など、グローバル人材育成に関する取組
	今年度は「令和７年度都立高校生等の海外派遣研修」に参加することができた。ニュージーランドへ４名が派遣され、夏季休業前から事前学習に取り組み、校内でも専門の教員やＪＥＴと研修し、２月の成果報告会まで充実した取組ができた。この取組を全校生徒に報告する機会を経て、参加生徒を中心に国内外の課題に対する意識や態度が変化したことは、学年末の校内意見発表会でも表れており、次年度も継続できれば、この良い傾向が継続、向上できるものと期待できる。
②生活指導	**（ア）基本的生活習慣の確立、規範意識（学校生活の規律を大切にする態度）、マナーの醸成に向けた、全教職員による年間を通じた継続または指導期間の指導（登校、授業、集会、ＨＲ、職員室入室時等）**
	総じて授業規律や集会の参加状況は保たれている。日常の礼節指導はもとより、集会時の話を聞く姿勢の改善に向け指導をしているが、一部で落ち着かない状況がある。今後さらに、きめ細かな指導を通じ状況に応じた立ち居振る舞いができる姿勢を養う必要がある。今年度は盗難の疑いがあったため、校内巡回を再開した。生活指導部を中心に学校全体の取組として実施し、文化祭以降は盗難の疑いはなくなったが、巡回の徹底が難しい臨時時間割の取組を改善する必要がある。 また低学年ほど精神的な発達が至らない生徒が多く、一部で迷惑行為を行う者がいたが、生活面の指導は教科の指導力も向上させて、学校全体として取り組む必要がある。 頭髪については大多数の生徒が守ることができている。保護者、生徒、教員の共通認識のもとに指導に取り組み、進路指導とも結び付けた取り組みにより、一定の成果は得られたものと考えられる。また、一般的には、学年進行ごとに染色する生徒が多くなる傾向と言われるが、本校ではその傾向が少ない。安全・衛生教育の一部としてあるいはキャリア教育の一つとしても併せて継続していく。 遅刻指導は「登校確認票」を提出させることで把握し、昨年度に比べてこの取組は改善された。しかし、特定の生徒の遅刻が多くなる傾向は今年度も同様であった。背景は個々により様々で、体調不良によるものや家庭環境によるもの等、多岐にわたる。Classiの活用が昨年度よりも充実し、担任から保護者への連絡が円滑になったことで学校と保護者の連携は向上している。引き続き、遅刻連絡の徹底と組織的な遅刻指導を次年度の課題として取り組む。 毎学期、考査ごとに服装指導を行い指導している。対象となる生徒は、同じ生徒が多く、上級生の影響も少なくはない。学校全体として指導することだが、学年と生活指導部が中心となる職員の体制の課題もある。今年度は学校指定のポロシャツを導入したが、混乱はほとんどなく、生徒にも好評であった。
	（イ）安全指導
	昨年度に引き続き、交通安全教育を充実させ、登下校時のマナーと自転車通学のヘルメット指導に取り組んだ。下校時のヘルメット着用率がまだ低く、下校時の指導も適宜実施した。生活指導部担当の共通理解の下、年間を通して継続的に指導しているが、登下校中の交通事故は３件発生した。いずれも大きな事故にはつながらなかったが、指導を継続、充実させる必要がある。規律を守る意識の向上と併せた継続した取組が安全意識の定着につながり、安心・安全な学校生活にも及ぶものであることを学校全体に広げていく必要がある。 また農業科のＧＡＰやＨＡＣＣＰの取組と関連付けた指導も有効であり、規範意識の向上と相乗効果を狙って次年度以降も継続して取り組む。
	（ウ）自他の生命・人権尊重の精神（他者を尊重し、思いやりの心を大切にする）に向けた指導
	薬物乱用防止教室やセーフティ教室を通して、自他の生命や人権を尊重する指導を推進した。いじめ対策として、年３回のアンケート調査を行い生徒把握に努めた。４月から５月にかけて全学年で「いじめ未然防止学習会」を実施した。またスクールカウンセラーを活用し早期発見に努め、生徒の悩みに対応することでいじめ防止を図った。今年度からスクールカウンセラーが２名体制で充実したこともあり、特別支援委員会を通じて教員間の情報共有が進み、様々な問題行動を未然に防ぐ効果があったことが伺える。今年度はいじめと認定された案件はなかったが、いじめが発生した場合は、いじめ対策委員会を開催して生活指導部と連携して取り組む。
	（エ）危険を察知し回避する能力の育成に向けた安全指導と注意喚起（ﾎｰﾑﾙｰﾑ担任、専科教員他による）
	今年度も学級担任及び農業科の実習を中心に取り組んだ。農業科の実習ではＧＡＰあるいはＨＡＣＣＰを通じた生産工程管理を学び、安全管理のための物品管理や作業の危険予知や危険回避の取組を学び、一部は資格取得につながっている。これが日常生活に接続できるよう、学校全体の働きかけを増やす必要がある。
	（オ）学習環境の整備
	自習や補習の環境を整えるべく、国産木材什器を含めて廊下やフリースペースに机といすを配置した。このほか破損個所を速やかに修繕するとともに、生徒自ら学習環境を整えるべく、日々の清掃活動のほか、環境委員を中心に清掃用具を充実させた。 また、自宅の学習環境が整っていない生徒のために、今年度から寺子屋事業を夏季休業中だけでなく、定期考査直前にも開催して充実を図った。昨年度よりも多くの生徒が参加し、一定の成果が得られたため、次年度は教務部を中心に組織的に展開させる。
	（カ）情報発信への取組
	昨年度に引き続き、部活動の予定を学校ホームページに掲載し、ＸやInstagramに大会の結果や日頃の取組を投稿した。掲載内容の古いものがまだ散見されるため、次年度は内容を一新し、募集・広報活動にも寄与させたい。

③進路指導	令和７年度の進路決定率は91％であり、卒業時の進路未定は生徒７名であった。斡旋就職第一希望の生徒14名の全員が内定した。進学実績は下記のように例年以上の良い結果となった。専門を生かした就職は72％、進学は57％と例年よりも減少した。
	（ア）３年間を見通した計画的なキャリア教育
	３年間を見通した進路指導のロードマップを活用し、微調整を図りながら進路指導を行った。また、あらゆる教育活動においてキャリア教育を推進し、自己の在り方生き方を考えさせ、望ましい勤労観・職業観を育み主体的な進路選択を行える生徒の育成に役立てた。特に、学年ごとに卒業後の進路を見据えたガイダンスや長期休業中における見学課題等を通じ自己の進路について考えさせる指導を実施した。今後も進路指導部と学年が連携を図り、すべての生徒の希望する進路の実現を目指す。また、農業各学科では、学年に応じた産業現場見学を設定し農業及び農業関連産業への興味関心をもたせる学習活動を実践した。 来年度に向けた改善点として、進路指導部を中心としつつ各教科・学科との組織的な取組を一層進展させること、また「専門高校の新たな学びによる授業改善サポート事業」活用の検証と効率化を課題として取り組む。
	（イ）生徒の能力向上と生徒理解（興味・関心、能力・適性）に基づく進路指導
	進学では、本校生徒ではやや難しいと考えられる学校や学部に挑戦する生徒がいた。また、そのために努力する姿勢も見られた。これらの生徒の希望を叶えることが真の意味での進路実現である。受験指導、就職指導をより計画的に行うことは進路指導部の責務であると同時に、学年、教科との連携を強くもたなくては実現できない。今年度は全学年でスタディサプリを活用している。今後も組織的、具体的に進路実現を図れる環境をさらに醸成していく。 一方で本人の希望と進学先の内容に差異を感じながら受験する生徒もいたことは、生徒の適正理解について課題があり、次年度の重要な改善点である。
	（ウ）進路試験対策
	大学・短大進学者はＲ６年度の48名に対してＲ７年度は43名と同様であったが、専門学校進学者はＲ６年度の40名に対してＲ７年度は51名へ増加した。大学校（Ｒ６年度４名、Ｒ７年度２名）を含めた進学者数は、Ｒ６年度の88名(卒業生数の72％)からＲ７年度101名(卒業生数の81％)と大幅に上昇した。大学進学者の内訳は、農業系大学がＲ６年度33名に対してＲ７年度27名、大学・短大はＲ６年度48名に対してＲ７年度43名である。主な農業系大学進学先は東京農業大学11名、日本獣医生命科学大学４名、帝京科学大学４名などである。その他の大学短大は立教大学、十文字学園女子大学２名、実践女子大学、日本社会事業大学などである。また一般受験での進学者は東京芸術大学、駒澤大学、明治大学、東京農業大学、拓殖大学、嘉悦大学である。一般受験への取り組みは、低学年からの意識付け、学年、進路部、学科が連携した指導と「専門高校の新たな学びによる授業改善サポート事業」学力向上研究校を生かした取り組みの成果と言える。特に３学年は、推薦入試のための面接指導・小論文指導に力を入れた。夏季休業中には特別講習として、外部指導員や教員の面接指導や志望理由書の書き方講座を開催し、進学希望する生徒の全員が複数回参加した。今後は、大学進学希望者の増加に対応した取り組みとして、基礎学力向上のための講習や資格取得、専門教科学習の充実と併せて、３年間を見通した進路プランに従ってキャリア教育の充実を図っていく必要がある。 就職希望者に対しては、面接、作文指導や礼節指導等については進路指導部が中心となって実施し、挨拶や敬語、身だしなみの習慣は全校で指導に取り組んだ。また、夏季休業直前に労働局キャリア支援講座を受講させて就職準備を進めた。１回目の採用試験での不合格者が１名いたが、昨年度からは改善した。就職希望者は昨年度まで減少が続いていたが、Ｒ７年度は斡旋職希望者が14名で、昨年度同様であった。Ｒ７年度は公務員希望者４名が全員合格した。引き続き生徒の進路選択の幅を広げるためにも１年次より継続的に勉強に取り組ませていく環境づくりが必要である。
	（エ）ＩＣＴ機器等を利用した履歴の記録
	昨年度に引き続いて求人票の電子化を進め、1,200社以上の求人票を生徒が自分の端末で確認できるように取り組んだ。またTeamsを活用した面接や小論文の指導にも取り組み、このことが今年度の成果につながっていると考えられる。来年度以降もこの取組を継続し、指導の適時性を欠かないような仕組みを構築する。
	（オ）点検機能の充実
	調査書や推薦書は、組織的な点検機能（学年⇒進路指導部⇒教務部⇒管理職）を充実させ、進路に関する関係書類等の転記ミスを０とすることができた。 指定校推薦の取組で教員間及び教員生徒間の情報共有に課題が確認されたため、すぐに改善した。来年度も継続して連携と情報共有の強化を進める。
④特別活動・部活動	**（ア）学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、委員会活動、部活動への積極的参加**
	今年度も予定されたすべての学校行事を実施することができた。２大行事である体育祭と文化祭では実行委員を中心に全生徒が積極的に参加し、行事を成功裏に終わらせることができた。安全面・衛生面等を含めて日頃の学習の成果を発揮し、保護者や近隣住民にも大変好評であった。周知、誘導等に課題があり、来年度は改善を図る。
	（イ）部活動の充実、競技力の向上により達成感、成就感の感じられる活動
	実習や定時制との並置のために、放課後の活動時間が短い中でも積極的な活動をしている部は複数あり、馬術部、バドミントン部、男女バスケットボール部等で良好な大会成績を収めることができた。専門的な指導のできる教員がいない部では部活動指導員や「青少年を育てる課外活動支援事業」を活用した指導者を任用し、参加生徒の達成感、成就感が向上した。 また活動状況をホームページやX、Instagramに掲載し、生徒の達成感を校外にも発信した。
	（ウ）部長会、生徒会、委員会、農業クラブを活用して自主性、社会性、協調性の涵養
	生徒会活動では、生徒の自発的な取組を促すため、Teamsを連絡や情報共有、意見交換等にも活用し、一定の活性化を進めることができた。次年度も継続して生徒の健全育成に役立つ取組とする。

⑤募集・広報	**（ア）日常の情報発信・学校ホームページ、Ｘ、インスタグラムの活用→ホームページ、Ｘ等、学校パンフレットの充実、学校説明会、体験入学、学校・塾訪問、出前授業により学校の取り組みに関する積極的な情報発信、安定した入学者選抜応募倍率の実現**
	学校見学会(３回)、体験入学(２回)、学校説明会(２回)及び個別相談(５回)を行った。また、近隣の区(杉並区、中野区)の進路説明会(８回)、都立高校進学EXPO(２回)に参加したほか、今年度はNPO主催の進学相談会に12回参加し、募集・広報活動を拡充した。 昨年度に引き続き、ホームページ(525回)とＸ(138回)、Instagram(73回)による情報発信に努めた。 学校運営連絡協議会において、委員から提案された改善策を基に、来年度の広報活動を改善する。
	（イ）地場産業界・自治体との連携や公開講座等、地域連携活動の推進
	杉並区あるいは地域産業と連携してマルシェに４回参加した。校地内の生産品販売所「農芸マルシェ」と合わせて地域に貢献したことは生産品販売額の上昇として現れた。
	（ウ）美化活動、掲示活動の充実
	一斉清掃の実施により学習環境の整備や保全を心がけた美化活動をとおして、生徒の豊かな心を涵養した。今年度は物品管理、安全指導と併せた日々の美化活動を促す指導に取り組んだ。生徒の変容には成果が伺えることから、来年度もこれらの取組を継続する。
⑥健康促進	**（ア）生徒状況の把握と病気・怪我への迅速な対応。外部講師・掲示を活用した保健教育**
	今年度からclassiを本格的に運用し、生徒状況の把握、保護者との連携等に役立て、活用が進んでいる。 スクールカウンセラー及び外部講師（産婦人科医）を活用して性教育やＳＯＳの発信について学ぶ機会を設けた。生徒の反応は良好であり、来年度は都立高校等における産婦人科医を活用したユースヘルスケア事業も始まることから、一層の充実を図る。
	（イ）清掃用具などの整備、清掃指導、美化活動、環境教育の充実により教育環境の整備を含めた生徒の健康安全
	「環境教育実践宣言校」として、省エネ、ゴミ減量等について生徒・教職員ともに高い意識をもって実践した。ゴミ集積場の管理も徹底されており、生徒が協力して分別・コンパクト化に取り組んでいる。また昨年度に引き続き、清掃用具の整備に取り組み、清掃・美化活動に十分に取り組める環境を整えた。専門教育の一環として１年次から環境について学ぶ機会、中でもＧＡＰやＨＡＣＣＰについて学習する中で、作業に関わる物品、資材等の管理や自身の安全等についても考える機会を設け、生徒自ら学習環境を整え、自分の健康や安全について学習することができた。 なお保健室の利用は、年間1,142名、最も多かった訴えは頭痛(228件)、最も多かった曜日は水曜日(259名)、また２年女子の来室が最も多かった。 またホームルーム教室の空気検査の測定結果について、いずれも基準値相当であった。来年度は加湿器の活用について改善方法を指導する。
	（ウ）合理的配慮の把握と支援方法の工夫。ＳＣ・外部機関との連携。教職員との共通理解推進
	特別支援委員会を通じて支援を必要とする生徒の情報を共有し、生徒が安心して学校生活を過ごせるよう毎週委員会を開催した。スクールカウンセラーとも情報共有し、発達障害に係わる内容だけではなく、児童虐待等の疑われる生徒や福祉の関わりの必要な生徒について、子供家庭支援センター、児童相談所等と連携した。また保健部が中心となり校内研修及び専門医派遣事業を活用して事例研究会を実施した。特に、指導上共通理解が必要な対応方法について、専門医（精神科）より医療的な観点からの助言をいただいた。スクールカウンセラーを積極的に活用することで、多様な生徒の「心と体」の悩みに対して迅速に対応し、校内の教育相談体制を活性化した。この取組により、通級を希望する生徒・保護者と担任、養護教諭、スクールカウンセラーが緊密に連携し、円滑に通級を開始することができた。生徒へのきめ細かな対応は学校全体で取り組み、さらに、「ほけんだより」を全生徒に概ね毎月配布して健康推進に努めた。
	（エ）「TOKYOACTIVE PLAN for students」（令和４年３月策定）（総合的な子供の基礎体力向上方策（第４次推進計画）を参考にした生徒の体力向上への取組
	推進計画に沿って、体力テストを実施した。本校生徒は体力に自信のある生徒が少ないが、個々の体力向上への取組には意欲を持って取り組み、授業の一環として実施する長距離走大会には体調不良の生徒を除いて全員が乾燥することができた。
	（オ）感染症（コロナ・インフルエンザ）等の対応
	感染症対策としては、引き続きコンデションレポートの活用、十分な換気の実施と加湿器の設置を適切に行い、生徒が安心して登校できるように心がけた。今年度はインフルエンザの蔓延時期に臨時休業を２回実施したが、今年度からclassiを本格的に活用し、連絡は円滑であり、Teamsを通じてオンラインでの学習にも取り組むことができた。
	（カ）自殺対策基本法及び自殺総合対策大綱に基づく生徒の自殺対策に資する教育の推進
	法令に基づく都の施策を踏まえて、生徒や保護者への情報提供に取り組んだほか、日常的な担任と生徒、保護者との連携及び特別支援委員会を中心とした組織的な生徒支援の取組により、深刻な問題となる前に対処できた事例が複数あると考えられる。
⑦学校経営	**（ア）学校経営の充実**
	教育課程の適切な実施に伴い、評価の在り方に関する課題を挙げて検討した結果、評価の基準を調整した。教育課程の改善は令和９年度の改訂に向けて来年度も検討を重ねていく。 学力向上研究校事業により、１年生を中心に校内寺子屋事業を実施した。今年度は考査前の取組を追加し、生徒の反応は良好であった。今年度の取組を踏まえて来年度から取組を改善することを計画している。

毎週末にクリーンデスクに取り組み、保有個人情報の管理徹底を図った。そのために、机の施錠と使用する施設などの施錠を徹底した。また、個人情報を含む資料については、各担当者に確認を行ったうえで書類などを手渡した。一部の課題は管理方法を改善した。

（イ）ＯＪＴ・ＯｆｆＪＴ、自己研鑽、ＰＴＡ・同窓会との連携強化

学校は情報発信を積極的に行い、ＰＴＡや校友会と緊密に連携することにより教育活動をより一層充実させた。また、学校運営連絡協議会が実施する学校評価アンケート及び生徒の授業評価アンケート、さらに保護者意見の結果から分析や検討を継続的に行い、意見や提言を受け止め学校経営に反映させた。特に広報活動への提言は来年度の取組の参考となるものであった。

（ウ）経営企画室・教員の連携、計画・効率的な予算執行、施設・設備の点検・共有化と整備・改修

企画調整会議を基盤に据え、経営課題の解決と経営方針の徹底を図ることで迅速かつ組織的な対応力を高めた。また、各分掌はＰＤＣＡサイクル表を作成して、学校経営計画の実現を図るための進行管理に活用した。

毎朝の連絡をTeamsで共有することにより、経営企画室と教員の連携が充実したことから、来年度はこの取組を拡充させる。

一方、農業実習設備が老朽化しており、計画的な更新が必要である。予算執行においては、農業教育の特性もあり、支援センター執行率を高めることには難航している。また、本校校友会の御支援のもと横断幕２枚を追加し、学習成果を近隣に広報できるように整備した。

（エ）業務把握・削減・分担、意識改革、明るい職場

印刷業務の縮減のため、データの共有方法について研修し、Teamsを活用してペーパーレス化に取り組んだ。来年度は会議等の効率化に取り組む。業務の効率化を期待して組織的な取組を勧めたが、ＩＣＴ活用に対する苦手意識や一部業務で若手教員のみで取り組まざるを得ない状況があり、期待するほどの成果を得られていない。課題は明確であり、来年度は改善を進める。

生徒・保護者対応に限らず、日常の表現やコミュニケーションに意識改革の必要なことが多く、諸会議で改革を図った。この意識改革が明るい職場づくりにも寄与することは多くの職員が理解するところであり、来年度も改善に取り組む。

また、中部学校経営支援センター支所と緊密に連携に行い、情報を共有化して学校経営の適正化と効率化を推進し、経営基盤を強化した。服務事故０を目指し、研修を２回実施するとともに教職員一人一人は意識向上に努めたが、事故が発生した。来年度は研修の充実を図る。

（オ）計画・継続的研修、教職員のコンプライアンス意識の醸成、組織的点検の実施

授業、ＩＣＴ等の校内研修を４０回実施し、スキルアップとともにコンプライアンスの向上を図った。成績処理の際、調査書発行の際、また通知表作成の際に組織的に点検を実施し、事故の未然防止につながった。

⑧地域貢献活動

（ア）地域産業界・自治体・他校種との連携と充実

農業に関する内容を通じて、地域小学校、地域中学校、井草中学校区地域教育連絡協議会等と次の行事で連携した。

①すぎなみ産業マルシェ　②中野区花と緑の祭典(春)　③ＪＲ阿佐ヶ谷駅前花壇作り　④都民広場の都庁花壇制作　⑤有楽町交通会館マルシェ　⑥各市区立中学校出前授業　⑦杉並区立三谷小学校２年生授業『わたしの町はっけん』訪問、他

来年度もこれらを継続し、地域に根差した学校としての存在意義を高めていく。

（イ）地域行事への参加、ボランティア・町内装飾活動

地域行事へはすぎの子収穫祭に参加したほか、地域広報誌の取材に馬術部が協力した。

（２）数値目標と結果

①過去２年間の数値結果

項目		目標内容	令和６年度	令和７年度
学習活動	ア	生徒の授業満足度　（75%以上）	95%	91%
	イ	原級留置者　各学年（0.2%以下）	1.04%	1.14%
	ウ	各種資格・検定合格者（生徒数以上）	258 件	250 件
生活指導	エ	クラス１日当たりの遅刻者数減少（1.0 人未満）	2.0 人	2.2 人
	オ	中途退学率の低減維持（0.0%以下）	3.27%	1.24%
進路指導	カ	第一志望決定率（80%以上）	92%	91%
	キ	卒業時進路決定率（95%以上）	93%	85.5%
	ク	就職決定率（100%）	80%	94.7%
	ケ	進学者に占める四大・短大割合（40%以上）	55%	43%
	コ	農業及びその関連企業への進路　進学 50%以上、就職 75%以上	進学 66.7%% 就職 62.5%	進学 57% 就職 72%
募集活動	サ	中学校訪問、塾訪問等（一人３校以上）	137 校	170 校
	シ	説明会、体験入学、個別相談（13 回）中学校への講師派遣（15 回）	13 回 18 回	28 回 10 回
	ス	ホームページ・Ｘ（旧 Twitter）／更新回数（100 回）	187 回	HP525 回 Ｘ138 回 Instagram73 回
	セ	各学科の第一次募集最終応募倍率（1.2 倍以上）	1.03 倍	0.97 倍

②入学者選抜応募状況						
応募状況	学科	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
最終応募状況（倍率）	園芸科学科	1.12	0.96	1.35	1.17	1.26
	食品科学科	1.00	0.93	1.17	1.02	0.89
	緑地環境科	1.00	0.70	0.91	0.91	0.83
最終倍率		1.03	0.88	1.15	1.03	0.97

③進路状況																
区　分		令和３年度			令和４年度			令和５年度			令和６年度			令和７年度		
		男子	女子	計	男子	男子	女子	計	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
進学	大　学	25	21	46	28	20	48	25	21	25	21	29	50	20	21	41
	短　大		5	5		3	3		5		0	2	2	0	2	2
	専門学校	14	18	32	19	17	36	14	18	14	22	17	39	22	27	49
	大学校	2		2	3		3	2		2	3	1	4	2	0	2
	その他			0			0						0			0
就職	学校斡旋	15	7	22	11	10	21	15	7	15	7	4	11	8	6	14
	縁　故	2		2	4	3	7	2		2	2	1	3	0	0	0
	公務員	3		3	1	2	3	3		3	2	0	2	2	2	4
	自営・家事		1	1	1		1		1				0			0
	アルバイト		4	4			0	0	2	2	2	1	3	2	3	5
未定	進学準備	2	1	3	5	4	9	4		4	3	1	4	5	2	7
	就職準備			0	1		1			0	0	1	1			0
	その他			0			0			0	1	1	2			0
	合　計	58	66	124	73	59	132	65	54	119	63	58	121	61	63	124

３　今年度の成果・課題と改善策

	重点項目	成果と課題	改善策
(1)	感染症対策	【成果】①コンデションレポートの活用における健康観察入力の実施。各教室の換気。②Teams 活用によるオンライン授業の実施。 【課題】サーキュレーターの活用。	①手洗い、手指消毒、換気の継続 ②サーキュレーター活用方法の改善
(2)	生活規律の醸成	【成果】①学校生活全般を通じたきめ細かな生活指導の充実。②生活指導部による正門見守り指導を通年実施。 【課題】①基本的生活習慣の確立。②通信機器等活用マナーの向上。③組織的・段階的な遅刻指導の実施。	①組織的な校内外巡回と正門立ち番の継続 ②段階的な遅刻指導の実施 ③組織的な頭髪指導及び装身具確認指導 ④自転車安全指導の充実（ヘルメット着用） ⑤制服等着用指導の徹底 ⑥全校集会時の事前指導及び事後指導 ⑦チャイム着席の徹底
(3)	基礎学力の向上	【成果】①教科会や教科主任会議を中心としたスタディサプリの活用等による基礎学力向上の取組みの結果、スタディサプリ利用率の向上。②校内寺子屋事業の改善による学習環境整備と成績の向上。 【課題】①家庭学習の時間確保。②放課後の学習環境の整備。	①各種調査の分析により、家庭学習時間確保に向けた課題の工夫 ②転退学の抑止に向けた面談の実施と保護者との連携 ③評価材料の改善とスタディサプリ利用率の一層の向上
(4)	指定校等の取組	【成果】①学力向上推進校：１学年と各教科の連携により教科指導を実施。年間 25 回×２時間の教科指導において、参加人数は延べ 100 名超、対象生徒の 100%が参加した。参加した生徒からは肯定的な意見が多かった。②専門高校の新たな学びによる授業改善サポート事業：進路指導部が中心となり運営。面接指導、放課後の化学の補習、到達度テストの事後指導などに取り組んだ。 【課題】事業の終了する校内寺子屋は校内の取組としては継続するため、専門高校の新たな学びによる授業改善サポート事業の活用により、教務部を中心に組織的に対応する。	①学力向上研究校事業：教務部を中心とした組織的な対応と年間を通じた指導 ②専門高校の新たな学びによる授業改善サポート事業：1)専門学科の実習内容の向上と丁寧な指導体制の両立を目指した元教員の活用　2)生徒の探究活動の充実と進路実現の両立を目指した指導者の配置

(5)	進路指導の充実	【成果】①３年間を見通した進路指導のロードマップに基づいた計画的な進路指導。②指定校受験における計画的な指導。③進路状況掲載方法の改善。 【課題】①出口指導の強化。②面接指導の改善。③面談の頻度を高め、生徒理解の改善。	①面接・小論文指導の前倒し ②進路だよりの充実 ③キャリア教育に向けた情報の一元化集約（各科の資格指導実施及び取得状況、インターンシップ状況等）。 ④到達度テストの分析と指導・対応の改善 ⑤進路指導部と学年の連携強化 ⑥推薦を活用する生徒の指導と保護者理解。
(6)	防災教育の充実	【成果】①避難訓練を４回実施。②取組を見直して学校全体の意識向上。③上級救命講習を受講。 【課題】①訓練内容の向上。②地域と連携した訓練の充実。	①地域連携の強化と避難所を想定した生徒主体の訓練 ②上級救命講習は継続し、事前指導を充実
(7)	安心できる安全な学校	【成果】①特別支援委員会及び学級担任の取組を核として生徒情報の共有と組織的な対応を継続。②全生徒にいじめに関する講話を実施。③教職員対象の体罰根絶を目指した研修会を実施 【課題】①若い教員の生徒・保護者対応への支援。②継続的・組織的な支援体制	①副担任の役割明確化 ②校内研修会の充実 ③特別支援委員会の充実 ④生徒情報の共有と組織的な対応の継続
(8)	専門分野の知識技術等向上	【成果】①スモールステップによる段階的指導拡充による生徒の達成感と意欲の向上。②スマート農業機器導入に伴う発展的内容の拡充 【課題】①各種検定合格率の向上。②安全かつ安定的な技術指導に必要な施設の改修。	①検定指導における良い事例の共有 ②反復練習、繰り返し指導等の補習拡充 ③ボイラー改修、上位資格の必要ない車両の導入 ④スマート農業施設の拡充と教育課程への位置づけ明確化
(9)	部活動加入率の向上	【成果】①生活指導部による一斉部活動紹介の実施により、１年生の加入率向上。②Ｘ、ホームページ、インスタグラムなどからの情報発信回数増加。 【課題】①活動内容の充実と一層の向上。②部活動の情報発信頻度向上。③外部指導員の拡充。	①ＰＴＡ広報誌の活用 ②情報発信でのホームページ活用方法の改善 ③馬術部、バドミントン部等での指導員拡充
(10)	特別支援教育の充実	【成果】①特別支援委員会の定着。②生徒の情報共有の向上。③円滑な通級の開始 【課題】①通級担当者の技量向上。②特別支援教育コーディネーターの機能向上。	①特別支援委員会の定期開催を継続 ②通級支援事業者との連携強化 ③「学校生活支援シート」の活用 ④「特別支援教育推進だより」の発行
(11)	人材育成	【成果】①若手教員に対する校内ＯＪＴを強化し、複数の主幹教諭による組織的な育成。②研究協議の改善。③主幹教諭・管理職候補者の育成。 【課題】①若手教員育成方法の改善。②次の世代の管理職候補者の育成	①複数分掌主任による育成体制 ②教員相互の授業参観の実施。 ③アクティブラーニングの視点をもった授業の展開。 ④諸会議を通じた学校経営への理解促進
(12)	募集活動の活性化	【成果】①校外説明会参加数の増加。②中学校訪問数の増加。 【課題】①募集倍率の向上。②ＳＮＳ活用方法の改善。	①中学校訪問時期と地域の精査 ②ＳＮＳ活用研修 ③広報の役割分担改善 ④中学校教員、学習塾に対する情報提供